

トーマス・マン文献目録(その三)

Verzeichnis der Literaturen und

Übersetzungen Thomas Manns in Japan—3—

村田 経和

(Tsunekazu Murata)

(その一)の補

B(58) Brief an Gertrud Lukács(1949)

『ルカーチ夫人宛書簡』○片岡啓治訳「病める芸術か、健康な芸術か」の内々8頁 現代思潮社 昭和35年

研究文献(続)

《独乙最近の戯曲小説》

厨川白村「帝国文学」10卷12号 明治37年

《マン兄弟論》

トーマス・マン文献目録(村田)

雪山眺村「帝国文学」16巻12号 1~11頁 明治43年

《マン兄弟の傑作梗概》

雪山眺村「帝国文学」17巻4号 明治44年

《トーマス・マンの小説》

小野秀雄「帝国文学」19巻7号 35~38頁 大正2年

《トーマス・マンの詩人観》

片山孤村「現代独乙文学観」の内 123~130頁 京都・文献書院 大正13年

《フィオレンツァ》

森鷗外「戯曲梗槩七十三種」の内 鷗外全集第3巻 85~88頁 大正14年(「近代劇精通」(田中栄三編、東京

靱山書店発行)より採録、原稿発表は明治43年頃か)

《トーマス・マンの演劇論》

小森三好「文学思想研究」7巻 早稲田大学文学思想研究会編 新潮社 昭和3年

《トーマス・マン》

実吉捷郎 岩波文庫「トーマス・マン短篇集I」昭和5年

《トーマス・マン》

江間道助「世界文学講座独逸文学編(下)」の内 新潮社 昭和5年

《独乙文芸壇の印象》

相良守峯「独乙文学研究」1号 95～118頁(内115～117頁に「マリオと魔術師」の紹介)東京帝国大学独文学

会編 建設社 昭和7年

《トオマス・マンの人と作品》

神保謙吾「独乙文学研究」1号 151～181頁 昭和7年

《マンの鬱憤と僕の感想》

吉田次郎「カスタニエン」2号 京都帝国大学独文学研究会編 昭和8年5月

《ナチスの弾圧と独乙文壇》

溝辺龍雄「九州大学新聞」89号 昭和8年5月20日

《感傷詩人と素朴詩人》

浜中英田「独乙文学研究」4号 昭和8年

《マン》

白旗信「世界文学講座」7回配本 岩波書店 昭和8年

《トオマス・マン》

白旗信「文芸」昭和9年4月号 改造社

《世界戦争以後の独乙文壇を眺めて》

上村清延「独乙文学研究」5号 5～47頁 昭和9年

《市民的トオマス・マン》

吉田次郎「カスタニエン」7冊 昭和9年6月

《批評家トオマス・マン》

吉田次郎「カスタニエン」8冊 昭和9年10月

《詩人・思想家トオマス・マン》

和田洋一「カスタニエン」8冊 昭和9年10月

《マン年表及び日本の文献》

杉山二十一「カスタニエン」8冊 昭和9年10月

《トーマス・マンの世界観》

江間道助「浪漫古典」1巻8号(トオマス・マン研究特輯号)127頁 昭和書房 昭和9年11月

《マンとナチス文学》

武田忠哉「浪漫古典」1巻8号 21～26頁 昭和9年11月

《トーマス・マンの史詩的意図》

片山敏彦「浪漫古典」1巻8号 27～31頁 昭和9年11月

《トオマス・マン文献》

佐藤恒久「浪漫古典」1巻8号 104～115頁 昭和9年11月

《トーマス・マンの小説について》

白旗信「浪漫古典」1巻9号 43～48頁 昭和9年12月

《故国を逐はれた作家達(1)》

和田洋一「カスタニエン」13冊 35～44頁 昭和10年10月

《トーマス・マンとフェルナンデスの近況》

「世界文化」昭和10年9月号 京都・世界文化社

《トーマス・マンの音楽性について》

寺田正二「エルンテ」7巻4号 25～49頁 東京帝国大学独文研究会 伊藤書林 昭和10年12月

《故国を逐はれた作家達(2)》

和田洋一「カスタニエン」16冊 昭和11年5月

《文学論について》

土方定一「トーマス・マン文学論」の内 295～298頁 東京・サイレン社 昭和11年

《自由のための戦ひ——トーマス・マン》

和田洋一「カスタニエン」改巻2号 昭和12年10月

《幼児の花びらとトーマス・マン》

高安国世「カスタニエン」改巻3号 昭和12年11月

《海外作家の近影 トーマス・マン》

「文芸」昭和13年1月号

《トーマス・マン主要著作年表、文献》

トーマス・マン文献目録(村田)

浜野修「自伝」(改造文庫)の内 97~102頁 昭和14年

《時代の要求について》

佐藤晃一「時代の要求」の内 295~300頁 青木書店 昭和14年

《近代文学に於る生と死に関する一考察》

麻生種衛「独乙文学」2年4輯 399~444頁 東京帝国大学独文学会編 有朋堂 昭和14年

《トーマス・マンの世界》

麻生種衛「巴里日記」の内 163~241頁 青木書店 昭和15年

《トーマス・マンに就いて》

江間道助 ノーベル賞文学叢書14「主人と犬」1~9頁 今日の問題社 昭和16年

《トーマス・マン》

竹山道雄「混乱と若き悩み」の内 345~346頁 新潮社 昭和16年

《トーマス・マンの文学的性格(上)》

石川淳 三笠版「トーマス・マン全集」月報1号 昭和16年

《幼児の花びらとトーマス・マン》(再)

高安国世「若き日のために」東京・七丈書院 昭和19年

《トーマス・マン 人間と芸術》

手塚富雄「文芸」12卷13号

《トーマス・マンの場合》

高橋義孝「文芸」13巻8号

《マン素描——トーマス・マン討論会責任者の報告——》

高橋義孝「近代文学」4巻1号 36～38頁 昭和21年1月

《トーマス・マンの亡命》

望月市恵「文明」1巻2号 44～51頁 昭和21年3月

《トーマス・マン紹介》

桜井正寅「文学研究」昭和21年9・10合併号

《作家の歩みについて》

大山定一「作家の歩みについて」の内 1～32頁 京都・甲文社 昭和21年

《ヒューマンイズムと文学》

大山定一「作家の歩みについて」の内 65～78頁 昭和21年

《トーマス・マン論》

大山定一「作家の歩みについて」の内 79～138頁 昭和21年

《芸術の衝》

大山定一「作家の歩みについて」の内 161～176頁 昭和21年

《青い手帖》

トーマス・マン文献目録（村田）

大山定一「作家の歩みについて」の内 177~207頁 昭和21年

《トーマス・マン——人と作品》

高橋義孝「光」昭和22年1月

《トーマス・マンとヒューマニズム》

大塚幸男「知性と感性」の内 1~4頁 東京・南風書房 昭和22年

《トーマス・マンと政治と知識人と》

大塚幸男「知性と感性」の内 5~8頁 昭和22年

《トーマス・マンとヒューマニズム》

高橋義孝「ドイツ文学」1号 日本独文学会 昭和22年10月

《迷へる小市民——トーマス・マンに関する Exkurs》

平田次三郎「近代文学」昭和22年7月号 7~11頁

《トーマス・マンと芸術家的諷刺》

中村真一郎「諷刺文学」昭和22年7月号 26~28頁

《トーマス・マンのヒューマニズム》

臼井竹次郎「知慧」昭和22年9月号

《トオマス・マン》

吉田次郎「ヒューマニズムI」の内 253~290頁 八雲書店近代選書 昭和22年

《トオマス・マンの耳》

小林英夫「文体美学」の内 創元社 昭和22年

《幼児の花びらとトオマス・マン》(再)

高安国世「物への信頼と意志」の内 京都・明窗書房 昭和22年

《マンの問題性》

高橋義孝「マン・ヘッセ・カロッサ」の内 51~61頁 南北書園 昭和22年

《マンとその作品》

高橋義孝「マン・ヘッセ・カロッサ」の内 17~31頁 昭和22年

《芸術と政治》

高橋義孝「マン・ヘッセ・カロッサ」の内 32~42頁 昭和22年

《流竄と芸術の意味》

高橋義孝「マン・ヘッセ・カロッサ」の内 43~48頁 昭和22年

《トオマス・マンとファシズム》

佐藤晃一「大学」昭和23年3月号

《トオマス・マンをめぐる問題》

西義之「北国文化」昭和23年5月号

《民主主義への要望とその挫折》

トオマス・マン文献目録(村田)

滝崎安之助「独乙文学」2 8～21頁 日本独文学会編 生活社刊 昭和23年6月

《ヒューマニズムとトーマス・マン》

佐藤晃一「世界評論」昭和23年7月号

《トーマス・マン論》

佐藤晃一 講談社 昭和23年

トーマス・マンの生涯 3～13頁

あるトーマス・マン論とその反省 14～39頁

殷鑑遠からざることを 40～48頁

「愛と死」の snapshots 70～73頁

心の秘密 74～84頁

書き方と心理学 85～92頁

新ヒューマニズム試論 93～107頁

小説論抄 139～172頁

身辺雑記 173～185頁

影響にひびく 186～195頁

導きの星と波のたわむれ 222～228頁

文学の鬼 229～243頁

トオマス・マンとファシズム 244～259頁

ヒュウマニズムとトオマス・マン 260～271頁(以上既出のものを除く)

《神話の形成——トーマス・マンの小説論的歷程》

原田義人「思潮」昭和23年11月号 13～20頁

《トーマス・マン著作年表》

高橋義孝編「思潮」昭和23年11月号 21～28頁

《「失踪者」の「精神」——トーマス・マン論》

佐藤静夫「思潮」昭和23年11月号

《マンと政治》

内山敏「思潮」昭和23年11月号 42～45頁

《トオマス・マン》

佐藤晃一 世界評論社(世界文学はんどぶっく) 昭和21年

伝記 3～69頁

歴史的・文学史的環境 71～105頁

「批判と造型」の文学 109～111頁

作品の展開(既出のものを除く)

政治的でない一人間の観想 182～190頁

トーマス・マン文献目録(村田)

ドイツ共和国について 194～200頁

現代における意義 249～270頁

トーマス・マン年譜 271～314頁

著作年表 315～331頁

研究文献目録 333～342頁

《トーマス・マン討論会I》

高橋義孝・平田次三郎・本多秋五・中田耕治・佐々木基一・原田義人「近代文学」4巻1号 39～47頁 昭和24年1月

《トーマス・マン討論会II》

「近代文学」4巻2号 32～44頁 昭和24年2月

《トーマス・マンに於ける知性の問題》

橋本文夫「理想」189号 38～49頁 昭和24年1月

《青春と恋愛——トーマス・マン 伝2》

西義之「文華」38号 22～39頁 石川文化懇話会編 北国毎日新聞社 昭和24年3月

《幼児の花びらとトーマス・マン》(再)

高安国世「トーマス・マンとリルケ」の内 163～177頁 京都・アテネ書院 昭和24年

《トーマス・マンと政治》

高安国世「トーマス・マンとリルケ」の内 178～185頁 昭和24年

《トオマス・マンの言葉》

佐藤晃一「デモス」17巻5号 24～28頁 昭和24年4月

《老トーマス・マン》

R・シンチンゲル「ニューエボック」1巻3号 88～89頁 東西出版社 昭和24年8月

《トーマス・マンの苦惱と偉大さ》

佐藤晃一 日本独文学会編「ドイツ文学における悲劇性とその超克」の内 東京・郁文堂 昭和24年

《反語的創造——トーマス・マンと新しいヒューマニズム》

原田義人「現代ドイツ文学論」の内 1～8頁 東京・稲村書店 昭和24年

《神話の形成——トーマス・マンの小説論的歷程》(再)

原田義人「現代ドイツ文学論」の内 31～52頁 昭和24年

《倫理と美との対立》

佐藤晃一 「東大新聞」 昭和24年4月11日

《幼児の花びらとトーマス・マン》(再)

高安国世「《魔の山》とその他」の内 76～88頁 京都・明窗書房 昭和24年

《永遠なるゲートル》

佐藤晃一「永遠なるゲートル」の内 248～252頁 講談社 昭和24年

トーマス・マン文献目録(村田)

《トオマス・マン》(再)

実吉捷郎 岩波文庫「トオマス・マン短篇集」Iの内 143~145頁 昭和24年

《トオマス・マン——評伝・思想・文獻》

佐藤晃一 「理想」 昭和25年1月

《文化と文明(トオマス・マンの場合)》

佐藤晃一 「現代世界文学講座ドイツ編」の内 新潮社 昭和25年

《トオマス・マンと哲学》

佐藤晃一 「哲学講座」5の内 筑摩書房 昭和25年

《トーマス・マンの殉教》

和田洋一 「ドイツ文学」4号 28~32頁 日本独文学会 郁文堂 昭和25年5月

《文明について》

佐藤晃一 「読書新聞」 昭和25年5月31日

《トーマス・マンと自然主義》

西義之 「北国文化」57号 22~25頁 石川文化懇話会編 北国新聞社 昭和25年10月

《ドイツの内面性について》

佐藤晃一 「朱鳥」10号 昭和25年12月

《トオマス・マンの「政治的態度」》

佐藤晃一 「展望」61号 82～87頁 昭和26年1月

《わたしの時代》

佐藤晃一 「読書新聞」 昭和26年1月24日

《トマス・マン》

原田義人「文学講座」IVの内 筑摩書房 昭和26年

《平和運動とトーマス・マン》

佐藤晃一 「月刊世界文通誌」2巻6号 ジャパンLPFクラブ 昭和26年6月

《トオマス・マンの辿れる道》

斎藤省三 「人文科学研究」1輯 新潟大学 昭和26年7月

《マリオと魔術師》

高橋義孝 新潮文庫「マリオと魔術師」 昭和26年

《トーマス・マンに於けるイロニーの問題》

柳川成男「ドイツ文学」7号 94～95頁 昭和26年11月

《トーマス・マン》

高橋義孝 「文学界」5巻12号 150～160頁 昭和26年12月

《現代ドイツ小説——トーマス・マンの場合》

柳川成男 「人文学報」 東京都立大学人文学会 昭和26年

《思いつくままに》

原田義人 「近代文学」10卷12号

《作家と二つの世界——ブレヒトとマンの例》

内山敏 「中央公論」67卷2号 154～158頁 昭和27年2月

《トニオ・クレエゲル》

実吉捷郎 岩波文庫「トニオ・クレエゲル」101～102頁 昭和27年

《遺恨の政治——トーマス・マンのヒューマニズム》

永野藤夫 「世紀」39号 32～36頁 昭和27年11月

《トオマス・マンの動的性格——イロニイの問題に関連して》

片山良展 「ドイツ文学」9号 12～16頁 昭和27年11月

《トオマス・マンと「芸術家問題」》

佐藤静夫 「ドイツ文学」9号 24～28頁 昭和27年11月

《トーマス・マンに関する短い感想》

志波一富 「ドイツ文学」10号 30～36頁 昭和28年5月

《トーマス・マンの顔》

佐藤晃一 「Books of the World」 旺文社 昭和28年

《選ばれし人》

佐藤晃一 「日本独文学会関東支部会報 1952/53」昭和28年

《トーマス・マン》

高橋義孝・佐藤晃一 新潮版「現代世界文学全集」27の内 1~10頁 昭和28年

《トーマス・マンを訪ねて》

高橋健二 新潮版「現代世界文学全集」月報14 1~2頁 昭和28年

《亡命の問題——T・マンの場合》

佐藤晃一 新潮版「現代世界文学全集」月報14 3~5頁 昭和28年

《ドイツ的世界観》

篠原正瑛 新潮版「現代世界文学全集」月報14 6~8頁 昭和28年

《若きトーマス・マン」の発展過程》

橘好一 「金沢大学法文学部論集文学篇」2 59~82頁 昭和29年2月

《選ばれし人》

佐藤晃一 「Books of the World」 旺文社 昭和29年5月

《作家と年令》

佐藤晃一 「毎日新聞」 昭和29年5月19日

《フアウスト博士誕生》

佐藤晃一 「フアウスト博士誕生」の内 201~204頁 新潮社 昭和29年

《トオマス・マン》

中谷博「理想」253号 108~110頁(現代に生きる思想家特集) 昭和29年6月

《ネールとトーマス・マン》

佐藤晃一「ネール世界歴史」月報5 日本評論新社 昭和29年10月

《ファウスト博士》

佐藤晃一「山形時事新聞」 昭和29年10月30日

《欺かれた女》

佐藤晃一「婦人公論」 昭和29年11月号 中央公論社

《抵抗の歴史——独裁者と闘うマン一族》

佐藤晃一「ドイツ抵抗文学」の内 141~253頁 東京大学出版会 昭和29年

《トーマス・マン》

原田義人「ドイツの戦後文学」の内 23~24頁 早川書房 昭和29年

《ブデンブローック家の人々》

佐藤晃一「世界文豪名作全集——読書案内」8 昭和29年

《マリオと魔術師》

野島正城 河出版「世界文学全集」17の内 1~2頁 昭和29年

《トーマス・マン年譜》

河出版「世界文学全集」17の内 373~378頁 昭和29年

《トーマス・マンの微苦笑——彼のイロニーについて》

早崎敏英 「ドイツ文学」13号 昭和29年11月

《トーマス・マン——自然と精神との調和》

佐藤晃一 「日本読書新聞」 昭和29年2月22日

《トーマス・マンにおける制作の意味》

牧祥三「立命館大学人文科学研究所紀要」3 昭和30年3月

《トーマス・マンへの関心》

実吉捷郎 三笠版「現代世界文学全集」月報27 1~2頁 昭和30年6月

《トーマス・マン》

中井正文 三笠版「現代世界文学全集」月報27 2~3頁 昭和30年6月

《おくれげの感想——Pariser Rechenschaftの一説をめぐって》

大久保和郎 三笠版「現代世界文学全集」月報27 4~5頁 昭和30年6月

《身についた精励——八十歳の誕生日を迎えるトーマス・マン》

手塚富雄 「朝日新聞」 昭和30年6月5日

《トーマス・マンの死》

高橋義孝 「東京新聞」 昭和30年8月13日

《地球の良心トーマス・マン》

高橋義孝 「朝日新聞」 昭和30年8月14日

《ペシミズムの由緒正しい相続人——トーマス・マンの作品について》

高橋義孝 「毎日新聞」 昭和30年8月14日

《トーマス・マンの死》

高橋健二 「読売新聞」 昭和30年8月

《トーマス・マンの文学と日本(上)》

佐藤晃一 「東京新聞」 昭和30年8月17日

《トーマス・マンの文学と日本(下)》

佐藤晃一 「東京新聞」 昭和30年8月18日

《トーマス・マンの死を悼む》

佐藤晃一 「図書新聞」 昭和30年8月20日

《トーマス・マンの死》

浅井真男 「日本読書新聞」 昭和30年8月22日

《マン私観》

上林暁 「日本読書新聞」 昭和30年8月22日

《マンの生涯と作品》

「日本読書新聞」 昭和30年8月22日

《トーマス・マンの邦訳書》

「日本読書新聞」 昭和30年8月22日

《トーマス・マンの死》

中島健蔵 「週刊サンケイ」 昭和30年8月

《シラー祭でのマン——死を悼む東独》

「図書新聞」 昭和30年9月3日

《トーマス・マン》

佐藤晃一 「学燈」 52巻9号 20～22頁 丸善 昭和30年9月

《もったいぶる》

佐藤晃一 「毎日新聞」 昭和30年9月10日

《トーマス・マンのベストスリー》

佐藤晃一 「毎日新聞」 昭和30年9月19日

《トーマス・マンとわたし》

佐藤晃一 「ブルンネン」 23 郁文堂 昭和30年9月

《ヘルメス——トーマス・マンの死》

佐藤晃一 「群像」 10巻10号 昭和30年10月

トーマス・マン文献目録(村田)

《マン文学再評価への提言》

吉田孚 「世界文学」6号 9〜頁 世界文学研究会 昭和30年10月

《トーマス・マンの死を悼む》

佐藤晃一 「財政」21巻1号 大蔵財務協会 昭和30年11月

《思いつくままに》

原田義人 「近代文学」 昭和30年12月号

《マンについて》

竹山道雄 角川文庫「マリオと魔術師」の内 157〜158頁 昭和30年

《トーマス・マンにおける芸術と芸術家の問題》

吉田次郎 「独乙文学研究報告」4号 1〜16頁 京大教養学部独乙語研究室 昭和30年12月

《トーマス・マンへの告別》

中田美喜 「ドイツ文学」15号 昭和30年11月

《トーマス・マンにおける Leistungsethos の展開——現代の反理性主義に対する一つの立場について》

長橋芙美子 「ドイツ文学」15号 昭和30年11月

《カロッサとトーマス・マン》

井上正蔵 「ドイツ近代文学研究」の内 309〜314頁 三一書房 昭和30年

《息子の世代》

山下肇 新潮版「現代世界文学全集」月報40 92~97頁 昭和31年4月

《ジョルジ・ルカーチのトーマス・マン批評の方向》

坂井洲二 「ドイツ文学」16号 昭和31年5月

《トーマス・マンと日本人》

高橋義孝 「まぬけの効用」の内 270~275頁 文芸春秋社 昭和30年

《トーマス・マンを霊界に訪ねて》

佐藤晃一 「架橋」1号 28~32頁 架橋同人社 昭和31年11月

《トーマス・マンとヒューマニズム》

佐藤晃一 現代ヒューマニズム講座4 「二十世紀のヒューマニスト」の内 宝文館 昭和31年

《トーマス・マンの二つの魂》

成瀬無極 「心」8巻11号 57~61頁 昭和31年11月

《トーマス・マン——審美主義とその克服》

笹谷雅 「ドイツ文学」17号 昭和31年11月

《トオマス・マンにおける市民性の超脱》

義則孝夫 「人文研究」7巻11号 82~102頁 大阪市大文学会 昭和31年12月

《トーマス・マンの生涯と作品》

佐藤晃一 体系文学講座8 「世界文学」の内 青木書店 昭和31年

《トーマス・マン作品邦訳書目録》

国立国会図書館一般考査部 21頁 昭和32年

《主として初期に於けるトーマス・マンの調和への意志について》

村田経和 「学習院大学文学部研究年報」4輯 251～344頁 昭和32年

《トーマス・マンとデモクラシー》

義則孝夫 「クヴェレ」1号 50～53頁 クヴェレ会 昭和32年4月

《Über die Ironie im Leben und Schaffen Thomas Manns》

青柳謙二 「ドイツ文学」18号 95～110頁 昭和32年5月

《トーマス・マンと時間論》

石上玄一郎 三笠版「現代世界文学全集」月報31 3～4頁 昭和32年7月

《トーマス・マンに関する覚書》

佐藤晃一 「日本独文学会関東支部1955～56会報」24～28頁 昭和32年8月

《トーマス・マンの「律法」》

徳沢得二 「日本独文学会関東支部1955～56会報」28～32頁 昭和32年8月

《主として初期に於けるトーマス・マンの美と芸術の問題について》

村田経和 「日本独文学会関東支部1955～56会報」32～34頁 昭和32年8月

《Tonio Kröger v. Adrian Leverkühn》

森川俊夫 「日本独文学会関東支部1955～56会報」34～35頁 昭和32年8月

《トーマス・マンに於けるローマン的伝説とコスモポリタニズムに就て》

山戸照晴 「内山貞三郎先生還暦記念ドイツ文学論集」の内 89～103頁 大阪大学文学部 昭和32年

《トーマス・マンのヒューマニズムについて》

片山良展 「内山貞三郎先生還暦記念ドイツ文学論集」の内 73～88頁 昭和32年

《トオマス・マンの初期の作品における芸術の危機》

川東祥剛 「大阪府立大学紀要」5 133～142頁 昭和32年

《トーマス・マン論——市民時代の終末》

山田広明 「早大大学院研究紀要」3号 269～272頁 昭和32年

《ドイツ市民性の代表者としてのトーマス・マン——序論》

片山良展 「大阪大学南・北校研究集録・人文社会科学」5輯 120～133頁 昭和32年

《最後の書》

義則孝夫 「独逸文学」1 26～44頁 関西大学独逸文学会 昭和33年

《トーマス・マン文学の焦点》

辻本金治 「人文学」38号 1～18頁 同志社大学 昭和33年

《西欧文学にあらわれた教師観》

朝日英夫 「教室の窓」7巻11号 8～11頁 東京書籍株式会社 昭和33年7月

トーマス・マン文献目録(村田)

《Thomas Mann》

R. Schinzinger 「Kleine und kleinere Schriften」のF 45～53頁 南江堂 昭和33年

《トーマス・マンに於ける『死と愛』の問題について》

空井義観 「独仏文学研究」8輯 26～33頁 九州大学 昭和33年

《ヤコブ物語》

高橋義孝 「ヨゼフとその兄弟たちI」の内 375～378頁 新潮社 昭和33年

《若いヨゼフ》

佐藤晃一 「ヨゼフとその兄弟たちII」の内 272～284頁 新潮社 昭和33年

《エジプトのヨゼフ》

菊盛英夫 「ヨゼフとその兄弟たちIIIの上」の内 313～317頁 新潮社 昭和33年

《エジプトのヨゼフ》

菊盛英夫 「ヨゼフとその兄弟たちIIIの下」の内 270～317頁 新潮社 昭和33年

《トーマス・マン小論——そのヨーロッパ性》

後藤健次 「学芸紀要」9 1～8頁 徳島大学 昭和34年

《トーマス・マンにおける『生への決意』について》

空井義観 「独仏文学研究」9号 59～62頁 九州大学 昭和34年

《トーマス・マン》

片山良展 「現代ドイツ文学」の内 138～145頁 手塚富雄・佐藤晃一編 有信堂 昭和34年
《養う人ヨゼフ》

森川俊夫 「ヨゼフとその兄弟たちIVの上」の内 283～291頁 新潮社 昭和35年

《養う人ヨゼフ》

森川俊夫 「ヨゼフとその兄弟たちIVの下」の内 236～242頁 新潮社 昭和35年

《略歴と著作目録》

片岡啓治 「病める芸術か健康な芸術か」の内 287～301頁 現代思潮社 昭和35年

《Der Begriff der Liebe bei Thomas Mann》

大森五郎 「中央大学文学部紀要」文学科8号 1～10頁 昭和35年

《トーマス・マンにおける芸術家の問題——トーマス・マン研究序論》

下程息 「大阪府大紀要」8 25～40頁 昭和35年

《トーマス・マン》

森田弘 「ドイツ文学」24号 3～8頁 昭和35年5月

《ふたつの第三帝国》

田子修平 「ドイツ文学」24号 8～14頁 昭和35年5月

《Thomas Mann における Parodie の問題》

青柳謙二 「ドイツ文学」24号 14～21頁 昭和35年5月

《トーマス・マンに於ける宿命について》

空井義観 「ドイツ文学」24号 42～47頁 昭和35年5月

《Thomas Mann in Japan——eine bibliographische Skizze》

村田経和 「ドイツ文学」24号 48～56頁 昭和35年5月

《カーチャ夫人訪問》

佐藤晃一 「ブルンネン」44 昭和35年7月

《トーマス・マンの墓を訪ねて》

佐藤晃一 「ブルンネン」45 昭和35年9月

《チューリヒのトーマス・マン記念堂》

佐藤晃一 「ブルンネン」46 昭和35年12月

《最近のトーマス・マン研究から》

吉田次郎 「独逸文学研究」10号 60～76頁 昭和36年

《思いつくままに》

原田義人 「反神話の季節」の内 258～264頁 白水社 昭和36年

《反語精神の芸術家トーマス・マン》

下程息 「ドイツ文学」27号 70～78頁 昭和36年11月

《トーマス・マンに於ける演技性》

松本道介 「ドイツ文学」27号 79～84頁 昭和36年11月

《トーマス・マン『ファウスト博士』における作曲技法》

武田昭 「文科紀要」7号 昭和36年3月

《トーマス・マン文献目録(その一)》

村田経和 「学習院大学文学部研究年報」7輯 169～193頁 昭和36年

《近代的自我転換の倫理(感想的ノート)(1)》

佐藤静夫 「上智大ドイツ文学会会報」4号 203～211頁 昭和37年5月

《トーマス・マン「ファウスト博士」》

武田昭 「東北ドイツ文学研究」6号 59～70頁 昭和37年6月

《トーマス・マンの世界》

佐藤晃一 大修館書店 昭和37年

カーチャ夫人訪問 10～14頁

トーマス・マンの墓を訪ねて 14～18頁

チューリヒのトーマス・マン記念室 18～22頁

もったいぶる 22～23頁

トーマス・マンの顔 23～24頁

作家と年齢 25～26頁

トーマス・マン文献目録(村田)

トーマス・マン文献目録(村田)

- トーマス・マンの死に際して 28～50頁
トーマス・マンとわたし 51～55頁(改稿)
トーマス・マンを霊界に訪ねて 56～63頁
ドイツの内面性について 66～70頁
文化と文明 70～97頁
倫理と美との対立 97～98頁
「小説の小説」とその政治的態度 98～106頁
「文明について」 107～108頁
「わたしの時代」 108～110頁
亡命の問題 110～113頁
平和運動とトーマス・マン 113～115頁
ネールとトーマス・マン 116～118頁
覚え書 118～122頁
トーマス・マンの苦悩と偉大さ 124～147頁
トーマス・マンとヒューマンイズム 147～154頁
トーマス・マンと哲学 154～160頁
ゲーテとトーマス・マン 160～186頁

- クッセとトーマス・マン 187～203 頁
- トーマス・マンの生涯と作品——概観 206～215 頁
- トーマス・マンのベスト・スリー 215～217 頁
- 「ブデンブローク家の人々」 217～220 頁
- 「トーニオ・クレイガー」 220～221 頁
- 「大公殿下」 221～222 頁
- 「ヴェニスに死す」 223～224 頁
- 「魔の山」 224～233 頁
- 「マリオと魔術師」 234～236 頁
- 「ヴァイマルのロッセ」 236～238 頁
- 「すげかえられた首」 239～240 頁
- 「ヨーゼフとその兄弟たち」 240～251 頁
- 「掟」 251～254 頁
- 「ファウスト博士」 255～265 頁
- 「選ばれし人」 265～271 頁
- 「欺かれた女」 271～273 頁
- 「詐欺師フェーリクス・クルルの告白」 273～282 頁

トーマス・マン文献目録(村田)

(。印新稿)

《Abschied von Thomas Mann》

R. R. Wuthenow 「Kafka and Mann」

《トーマス・マンと音楽(上)》

中条宗助 「愛知大学文学論叢」5ノ6 155～165頁

《トーマス・マンと共産主義》

高沖陽造 「世界と日本」22号

《政治とイロニーと——トーマス・マンの場合》

吉田仙太郎 「岡山大学法文学部学術紀要」2号 47～59頁

《トーマス・マンに於けるイロニーの問題》

川東祥剛 「浪速大学紀要」1巻(人文社会科学) 161～175頁

《ルカーチの「トーマス・マン論」》

米本三爾 「宮崎大学学芸学部研究時報」1ノ2

《トーマス・マンについての対話》

辻邦生・他 「文芸首都」24巻8号

《トーマス・マン声明》

平田次三郎 「おんどり通信」7巻4号 二頁

《世界人の話》

北川正夫 「ニューエイジ」1巻8号 33頁

《故郷を訪ねたトーマス・マン》

桑原健一 「世界の動き」4巻21号 26～27頁

《トーマス・マンを想う》

関泰祐 「文庫」48号

《エッセイ的第四章》

三光長治 「愛媛大学文学論叢」7号

《トーマス・マン》

山田広明 「綜合世界文芸」10輯 昭和31年

《トーマス・マンと音楽》

柳川成男 「図書」41号 17～18頁

《トーマス・マンとニーチェ——「非政治的人間の省察」を中心として》

古田耕作 「ドイツ文学研究」2号 33～49頁 昭和37年7月 日本独文学会東海支部

《ひとつの神話論——トーマス・マンとカール・ケレニイの往復書簡をめぐって》

生松敬三 「ドイツ文化」1号 12～21頁 中央大学ドイツ学会

翻訳文献

《無給社員時代のトオマス・マン》

エレッサー(土方定一訳) 「浪漫古典」1巻8号 49～58頁 昭和9年11月

《トーマス・マン》

ハーヴェンシュタイン(野村琢一訳) 「エルンテ」8巻2号 38～44頁 昭和11年11月

《トーマス・マンと語る》

フレデリック・ルフエーヴル 河出版「世界短篇傑作全集」月報1号 昭和11年10月

《トーマス・マン訪問記》

ロヴァート・ヴァン・ゲルター 「文芸」8巻8号 昭和15年8月

《トーマス・マン》

シュトリヒ(中川良夫訳) 「詩人と国家」の内 161～189頁 大観堂 昭和16年

《文学と文明》

シュトリヒ(中川良夫訳) 「詩人と国家」の内 161～236頁 昭和16年

《文学と文明(二)》

シュトゥリヒ(井手貴夫訳) 「三田文学」16巻3号 96～101頁 三田文学会 昭和16年3月

《仏訳論文集『ヨーロッパに告ぐ』への序文》

アンドレ・ジイド(石川湧訳) 「ヨーロッパに告ぐ」の内 1～101頁 大雅堂 昭和24年

《トーマス・マンへの公開状》

ポウル・オルベルグ(木下秀夫訳) 「改造文芸」 昭和25年2月号 6～9頁

《トーマス・マンを讃う》

フォイヒトワング 「新日本文学」 11巻4号

《超越のない世界》

ホルトウゼン(水野義夫訳) 「世紀」 37号 40～42頁 昭和27年8月

《黒い涙》

クラウス・マン(土方学洋訳) 194頁 ダヴィッド社 昭和30年

《「崩壊する市民」の文学——1》

ルカーチ(辻邦生訳) 「文芸首都」 24巻1号

《「崩壊する市民」の文学——2》

ルカーチ(辻邦生訳) 「文芸首都」 24年2号

《トーマス・マン論序文》

ルカーチ(片岡啓治訳) 「病める芸術か、健康な芸術か」の内 15～18頁 現代思潮社 昭和35年

《市民を求めて》

ルカーチ(片岡啓治訳) 「病める芸術か、健康な芸術か」の内 19～25頁 現代思潮社 昭和35年

《トーマス・マンの長篇小説大公殿下》

ルカーチ（片岡啓治訳） 「病める芸術か、健康な芸術か」の内 77～93頁 現代思想社 昭和35年
《近代芸術の悲劇》

ルカーチ（片岡啓治訳） 「病める芸術か、健康な芸術か」の内 95～184頁 現代思潮社 昭和35年
《演技的なものとその背景》

ルカーチ（片岡啓治訳） 「病める芸術か、健康な芸術か」の内 185～250頁 現代思潮社 昭和35年
《プロシア主義について》

ルカーチ（真下信一訳） 「現実と逃避」の内 81～115頁 平凡社 昭和32年
《文学的遺産にかんするトーマス・マンの意見》

ルカーチ（竹内良知訳） 「現実と逃避」の内 117～158頁 平凡社 昭和32年
《追放された詩》

ルカーチ（藤野渉訳） 「現実と逃避」の内 179～199頁 平凡社 昭和32年
《トーマス・マン》

ヨーゼフ・クントツ（小林栄三郎訳） 「二十世紀のドイツ文学」の内 311～388頁 慶応義塾ドイツ文学会編
昭和37年

（以上昭和37年6月10日現在）

(附 録)

すばる「むくどり通信」(森鷗外)に載せられたトーマス・マン記事

2 卷 2 号 146 頁 (明治 43 年 2 月)

12 月 9 日 伯林 Akademische Bühne の連中が新宮廷オペラ座で Fiorenza を興業

2 卷 3 号 61 頁 (明治 43 年 3 月)

S. Fischer の誕生 50 年を祝し Dehmel, Hauptmann, Hofmannsthal, Wassermann と共に署名した賀帳を贈る

2 卷 9 号 42 頁 (明治 43 年 9 月)

F. Wedekind の讃辞を受ける

2 卷 9 号 47 頁

遊興税反対署名者に連なる

3 卷 3 号 69 頁 (明治 44 年 3 月)

1909 年中にもっとも面白かった新聞記事はと尋ねられて「大公殿下」のモデルを Harrmann だと言われたことと答えた

3 卷 11 号 24 頁 (明治 44 年 11 月)

Boccacius を禁止した Fürstenwerth を語つて……so wenig die Leute, die in literarischen und künstlerischen Dingen solchen Absichten huldigen, Kunstverständige sind, so wenig sind sie……Moralisten……, sondern Antimoralisten, nur Aufpasser und Angeber, und sie verstehen unter Moral im Grunde nichts weiter als was

die Polizei unter guter Sitte versteht : nämlich die Forderung möglichster Vertuschung und Verhüllung alles Geschlechtlichen, — eine Forderung, die im bürgerlichen Leben vollauf berechnigt ist und bleibt, über die aber die Kunst zu allen Zeiten…… hinweggesetzt hat.

5 卷 1 号 110 頁 (大正 2 年 1 月)

Felix Krull 執筆中

(おごごわり)

カードに文献を記載してゆく仕事にはきりがありません。図書館おいでの天野氏や、ゲート協会の粉川氏のように比較的めくまれた環境におられてもその御苦心はなみたいていのものではないと思います。この仕事はタンタルスの業で、そこへ首を突込むのが不遜であれば中断するのも不遜。まだどこへ行けば新しい文献が手に入り、あるいは不備を補うことが出来るという場所を新たに知り、またたとえばドイツ語の教科書として編集されたものとそこに記された解説など未収録のものが多いさ中に、今回この仕事も中断しなければならなくなりました。まことに残念なことと思っております。